

運営 委員	小尾 隆一 【本人活動支援委員会】 〔(社福)大阪手をつなぐ育成会 常務理事〕
	石川 智子 【国際委員会】 〔(社福)東京都手をつなぐ育成会 施設長〕
	松崎 伸一 【事業所協議会】 〔(社福)はなゆめ 理事長〕
	佐藤 春光 【北海道ブロック長】 〔(一社)北海道手をつなぐ育成会 会長〕
	七宮 弘 【東北ブロック長】 〔(一社)福島県手をつなぐ親の会連合会 会長〕
	小島 幸子 【関東・甲信越ブロック長】 〔(一社)栃木県手をつなぐ育成会 理事長〕
	小出 隆司 【東海・北陸ブロック長】 〔静岡県手をつなぐ育成会 会長〕
	後藤 久美子 【近畿ブロック長】 〔(一社)神戸市手をつなぐ育成会 会長〕
	金子 麻由美 【中国・四国ブロック長】 〔(一社)広島県手をつなぐ育成会 副会長〕
	田中 寛 【九州ブロック長】 〔(公社)沖縄県手をつなぐ育成会 理事長〕
監事	小林 繁市 〔北海道伊達市手をつなぐ育成会 副会長〕
	村山 勇治 〔(公社)埼玉県手をつなぐ育成会 理事長〕

にあたっては、参加する利用者全員が理解をしやすいこと、安全面に問題がないことの2つの課題を同時に解決することが求められます。これらに加えて競技としての面白さもなくてはなりません。担当する職員は試行錯誤を繰り返しながら、完成させたという事でした。当日は参加の利用者も戸惑う事なく競い合っていました。

3つ目は、各事業所で応援旗を作成しました。準備の時間も十分ではなかったですが、それぞれに趣向を凝らした素敵な旗が出来上がりました。

今回の運動会では、昨年に引き続き事業所ごとのパフォーマンス合戦もしました。回数を重ねてきていることから、発表の際には小道具を用いたり、揃いの衣装を着たりと年々スケールアップしてきています。使用する楽曲も古典的な三・三・七拍子に、軽快なダンスミュージック、ピンクレディーの「UFO」といった往年のヒット曲もあり、それぞれの演目に合わせて様々なジャンルから取り入れていました。

閉会式では、応援旗やパフォーマンス合戦も加味して表彰式が行われました。表彰の最後には理事長賞の発表があり、今年度は港第二育成園が受賞しました。

来年も利用者の皆さんに「楽しかった」「また運動会したい」と思ってもらえる運動会にしたいです。



第3回育成園合同運動会を開催しました

法人事務局 道畑 有美香

7月2日(月)にアミティ舞洲で法人運動会を開催しました。

この運動会は、大阪市育成会の事業所5カ所(グループホームを除く)の利用者や職員の交流を目的としたもので、今回で3回目の開催となります。運動会と言えば秋を連想しますが、各事業所での行事が秋開催となることから、例年、この運動会は7月上旬に開催しています。ただ、新年度に入ってから準備を進めるためバタバタしながら当日を迎えている状況です。

そのような中、各事業所の職員で構成した実行委員会では、次の3つの事に挑戦してみました。

1つ目は、若手職員によるエビカニクスでした。このエビカニクスは「エビ!」「カニ!」と歌いながら体を動かす体操で、第1回から準備体操として行っています。以前はベテラン職員が中心でしたが、今回は比較的年齢の若い職員に任せてみました。緊張や恥ずかしさもありましたが、頑張ってくれ、利用者の皆さんも楽しそうに体を動かされていました。

2つ目は、新競技として「荷物運びリレー」をしました。この競技は一列に並んで先頭の人から最後まで荷物を往復させるリレー競技で、荷物を相手チームより早くゴールに置くというものです。競技を考案する

会員向け学習会を開催しました

7月は、ファイナンシャルプランナー・就活アドバイザーとしてご活躍の西村和子先生にお越しいただき、「私たち親の老後について、自分たちの年金セミナー」と題して勉強会を行いました。

まず、(老齢基礎)年金の被保険者の種類は第一号から第三号まで三種類あります。自分がどれに当てはまるか確認しました。受給の金額は、国民年金保険料を納めた期間に応じて変わり、20歳から60歳までの40年間で満額となります。平成30年現在の上限金額は年間約78万円で、月額約6万5千円です。